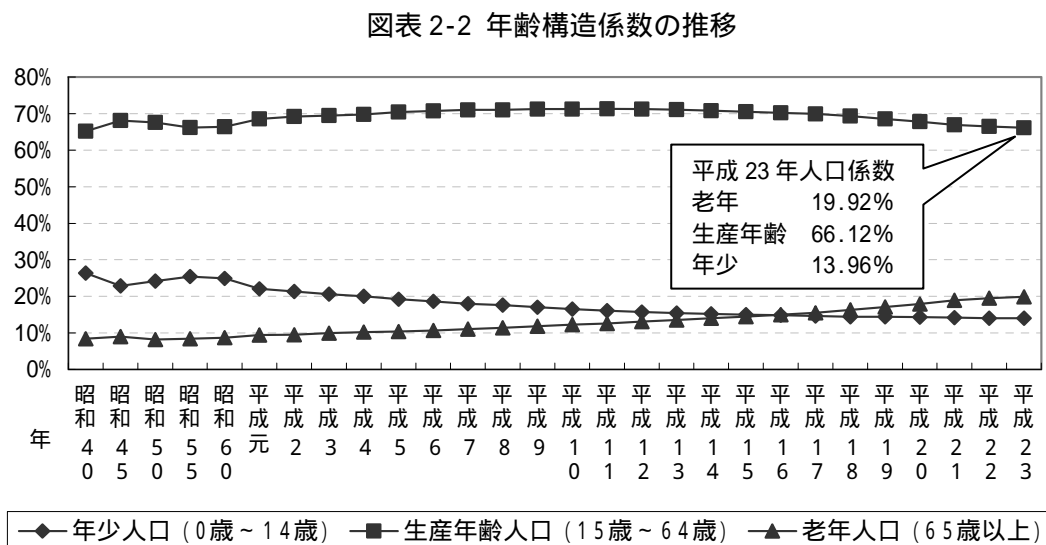
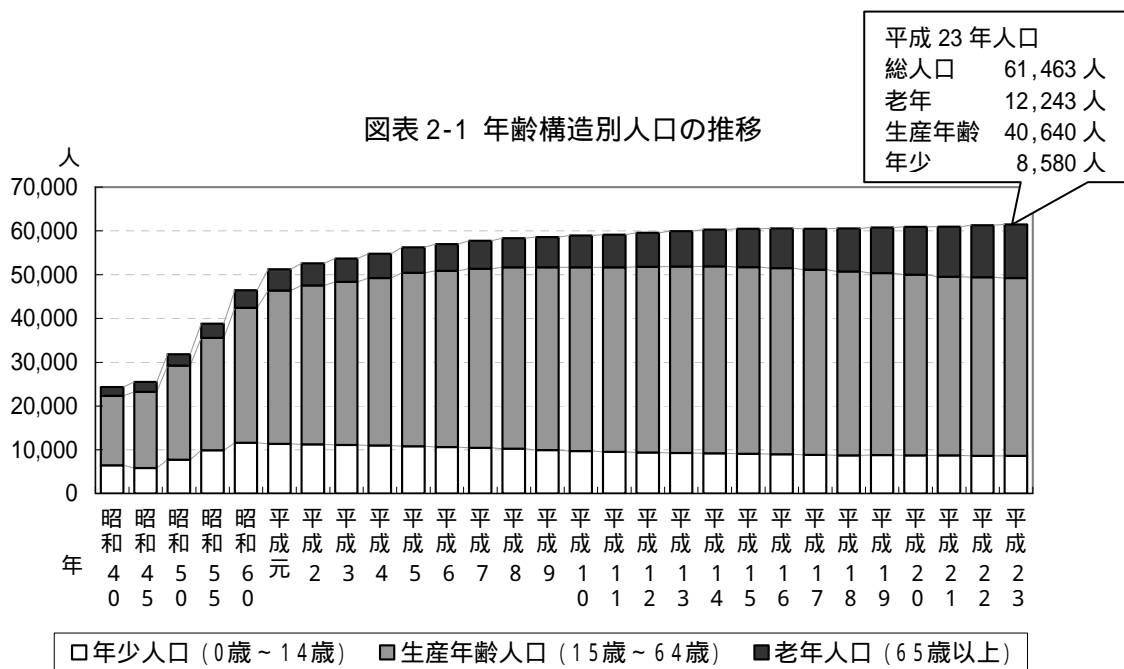


第2章 障害者等の現状

1. 障害者等の現状

(1) 人口の推移

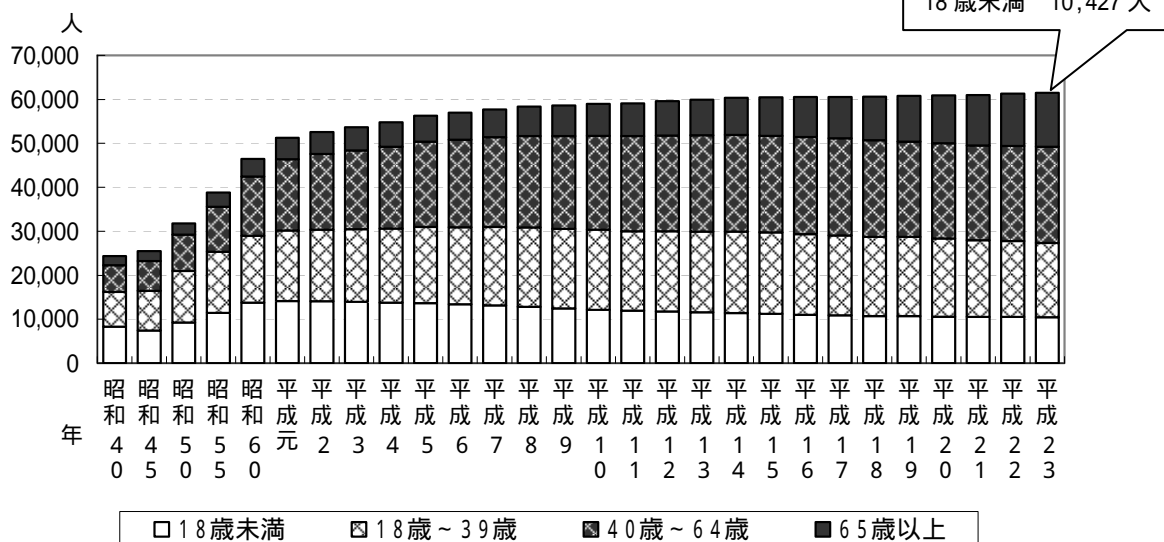
袖ヶ浦市の平成23年4月1日現在の総人口は、61,463人（住民基本台帳及び外国人登録者を含む）です。年齢階級別に見ると、年少人口の比率は13.96%、生産年齢人口は66.12%、老年人口は19.92%となっています。年少人口は年々減少しているのに対し、老年人口は年々増加し、平成23年には1万2千人を超えました。



< 出典 > 昭和60年以前：国勢調査（10月1日）、平成元年以降：登録人口（4月1日）

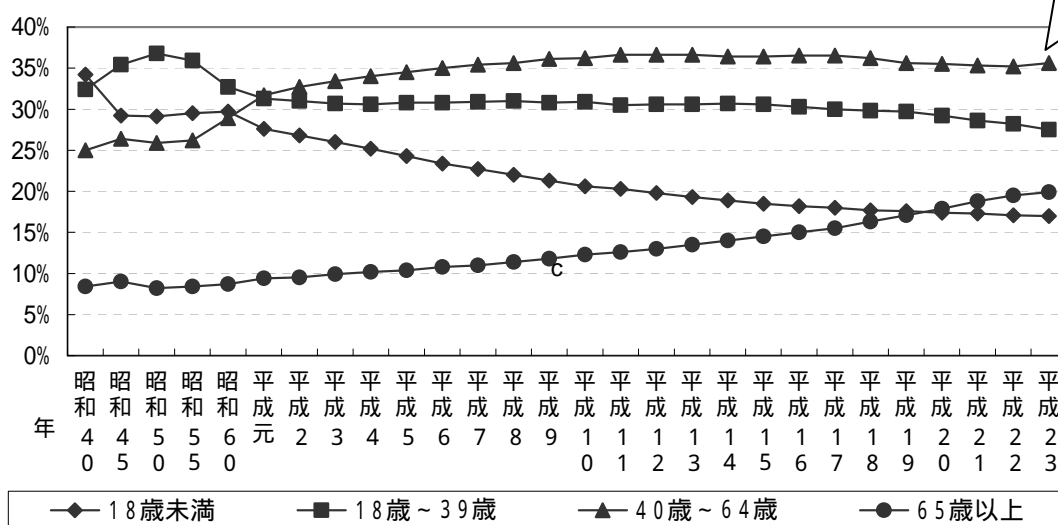
年齢階級別人口を、18歳未満、18～39歳、40～64歳、65歳以上に分けて見ると、18歳未満の比率は16.96%、18～39歳は同27.54%、40～64歳は35.58%、65歳以上は19.92%となっています。ここ数年では、18歳未満及び18～39歳は年々減少、40～64歳は概ね横ばい、65歳以上は年々増加しています。

図表 2-3 年齢別の人口の推移



平成23年人口
 総人口 61,463人
 65歳以上 12,243人
 40～64歳 21,867人
 18～39歳 16,926人
 18歳未満 10,427人

図表 2-4 年齢別の人口割合の推移



平成23年人口割合
 65歳以上 19.92%
 40～64歳 35.58%
 18～39歳 27.54%
 18歳未満 16.96%

< 出典 > 昭和60年以前：国勢調査（10月1日） 平成元年以降：登録人口（4月1日）

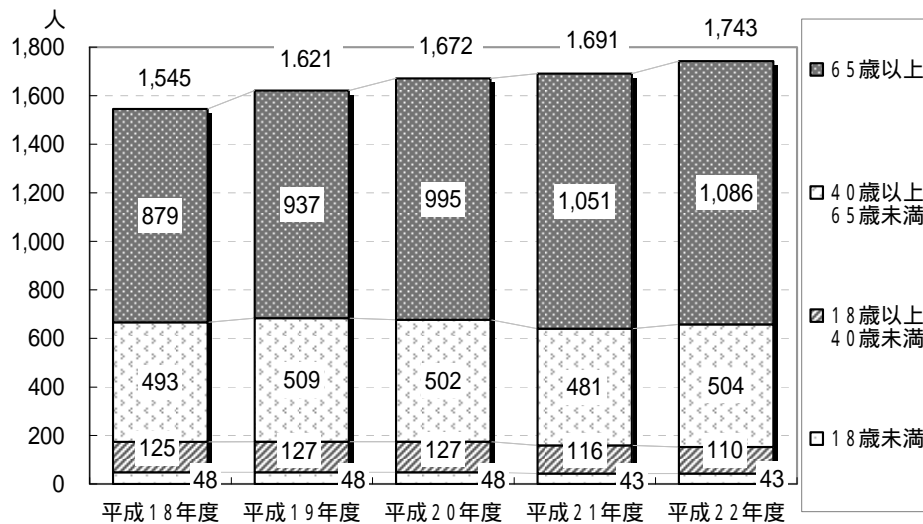
(2) 身体障害者・児の状況

平成23年3月31日現在、身体障害者手帳の所持者数は、1,743人（総人口比2.84%）となっています。

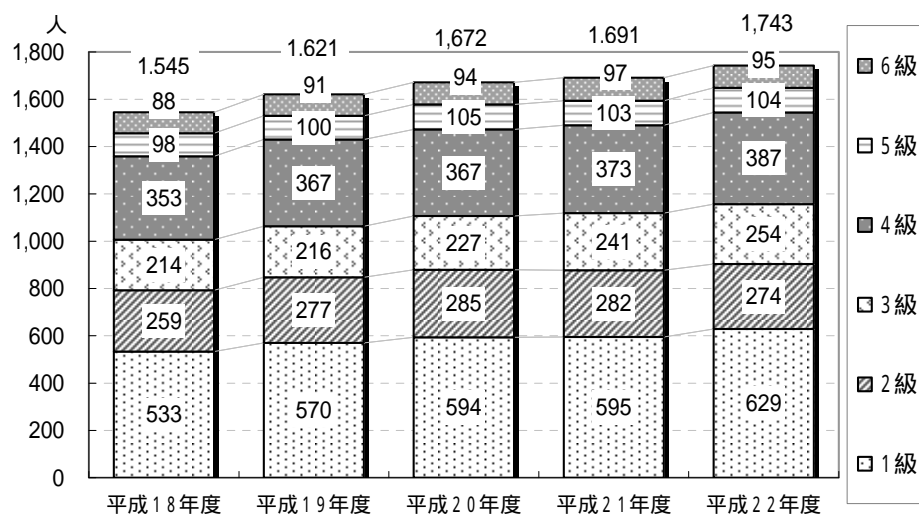
年齢階級別では身体障害者・児のうち、18歳未満の比率が2.5%、18歳以上が97.5%（内訳は、18～39歳が6.3%、40～64歳が28.9%、65歳以上が62.3%）であり、半数以上が65歳以上の高齢者によって占められています。

等級別では身体障害者・児のうち、2人に1人が1級と2級の重度という状況になっています。1級の比率が36.0%、2級が15.7%、3級が14.6%、4級が22.2%、5級が6.0%、6級が5.5%です。

図表2-5 身体障害者・児数の推移（年齢別）



図表2-6 身体障害者・児数の推移（障害等級別）



< 出典 > 福祉行政報告例等

障害部位別では身体障害者・児のうち、半数以上が肢体不自由者という状況になっています。

肢体不自由が56.4%、内部障害が29.6%、視覚障害が6.7%、聴覚・平衡機能障害が5.6%、音声・言語・そしゃく機能障害が1.7%という状況になっています。

図表2-7 平成23年3月31日現在の身体障害者・児数

障害区分別	区 分	身障手帳 所持者数	内 訳					
			1級	2級	3級	4級	5級	6級
視覚障害	18歳未満	0	0	0	0	0	0	0
	18～39歳	6	0	2	0	1	2	1
	40～64歳	34	14	5	4	3	3	5
	65歳以上	76	33	12	2	5	11	13
	小 計	116	47	19	6	9	16	19
聴覚・平衡 機能障害	18歳未満	6	0	3	1	0	0	2
	18～39歳	9	0	4	2	1	1	1
	40～64歳	27	6	6	4	4	0	7
	65歳以上	56	3	14	2	12	1	24
	小 計	98	9	27	9	17	2	34
音声・言語・ そしゃく 機能障害	18歳未満	0	0	0	0	0		
	18～39歳	1	0	0	0	1		
	40～64歳	7	0	0	5	2		
	65歳以上	21	4	3	9	5		
	小 計	29	4	3	14	8		
肢体不自由	18歳未満	27	20	3	3	1	0	0
	18～39歳	72	25	14	9	10	8	6
	40～64歳	282	56	64	47	73	29	13
	65歳以上	603	144	140	97	150	49	23
	小 計	984	245	221	156	234	86	42
内部障害	18歳未満	10	4	1	3	2		
	18～39歳	22	18	0	2	2		
	40～64歳	154	107	1	16	30		
	65歳以上	330	195	2	48	85		
	小 計	516	324	4	69	119		
合 計	18歳未満	43	24	7	7	3	0	2
	18～39歳	110	43	20	13	15	11	8
	40～64歳	504	183	76	76	112	32	25
	65歳以上	1,086	379	171	158	257	61	60
	小 計	1,743	629	274	254	387	104	95

< 出典 > 福祉行政報告例等

障害部位別のうち内部障害者の内訳は、心臓機能障害が261人で5割を占めている状況となっています。心臓機能障害が50.6%、呼吸器機能障害が5.0%、じん臓機能障害が28.7%、ぼうこう・直腸機能障害が13.9%、小腸機能障害が0.2%、免疫機能障害が0.6%、肝臓機能障害が1.0%という状況になっています。

なお、平成22年度から内部障害者の種目に「肝臓機能障害」が追加されました。

図表 2-8 平成 23 年 3 月 31 日現在の内部障害者の内訳

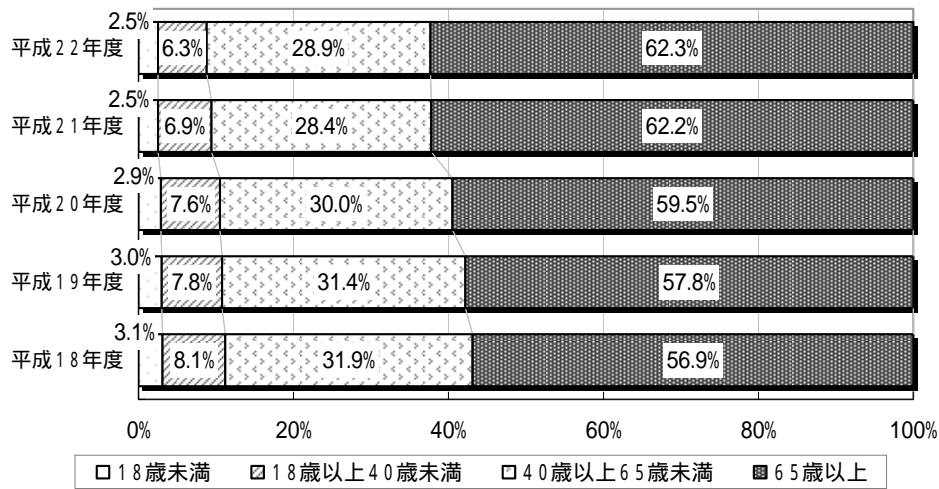
内部障害者の内訳	区 分	身障手帳 所持者数	内 訳			
			1 級	2 級	3 級	4 級
心臓機能障害	18歳未満	7	2	0	3	2
	18～39歳	12	10	0	1	1
	40～64歳	60	41	0	5	14
	65歳以上	182	122	0	31	29
	小 計	261	175	0	40	46
呼吸器機能障害	18歳未満	0	0	0	0	0
	18～39歳	0	0	0	0	0
	40～64歳	5	1	0	3	1
	65歳以上	21	6	1	9	5
	小 計	26	7	1	12	6
じん臓機能障害	18歳未満	2	2	0	0	0
	18～39歳	6	6	0	0	0
	40～64歳	67	62	0	5	0
	65歳以上	73	66	0	6	1
	小 計	148	136	0	11	1
ぼうこう・直腸 機能障害	18歳未満	1	0	1	0	0
	18～39歳	2	0	0	1	1
	40～64歳	18	0	0	3	15
	65歳以上	51	1	0	2	48
	小 計	72	1	1	6	64
小腸機能障害	18歳未満	0	0	0	0	0
	18～39歳	0	0	0	0	0
	40～64歳	1	1	0	0	0
	65歳以上	0	0	0	0	0
	小 計	1	1	0	0	0
免疫機能障害	18歳未満	0	0	0	0	0
	18～39歳	1	1	0	0	0
	40～64歳	1	1	0	0	0
	65歳以上	1	0	1	0	0
	小 計	3	2	1	0	0
肝臓機能障害	18歳未満	0	0	0	0	0
	18～39歳	1	1	0	0	0
	40～64歳	2	1	1	0	0
	65歳以上	2	0	0	0	2
	小 計	5	2	1	0	2

< 出典 > 福祉行政報告例等

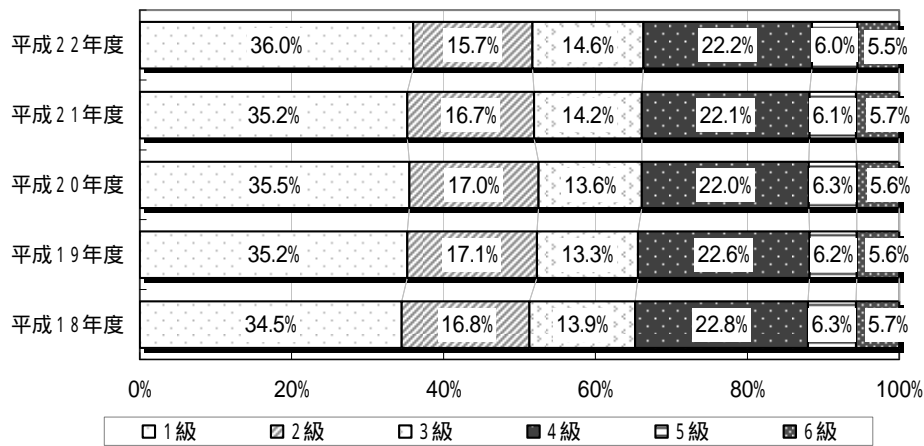
平成 18 年度から平成 22 年度(いずれも末日現在)にかけての身体障害者・児の割合の推移を次ページに示します。

身体障害者・児に関しては、概ね、「高齢障害者」、「重度障害者」、「内部障害者」の割合がやや増加しているという傾向があります。平成 21 年度と比較しても、その傾向が一層進んでいます。

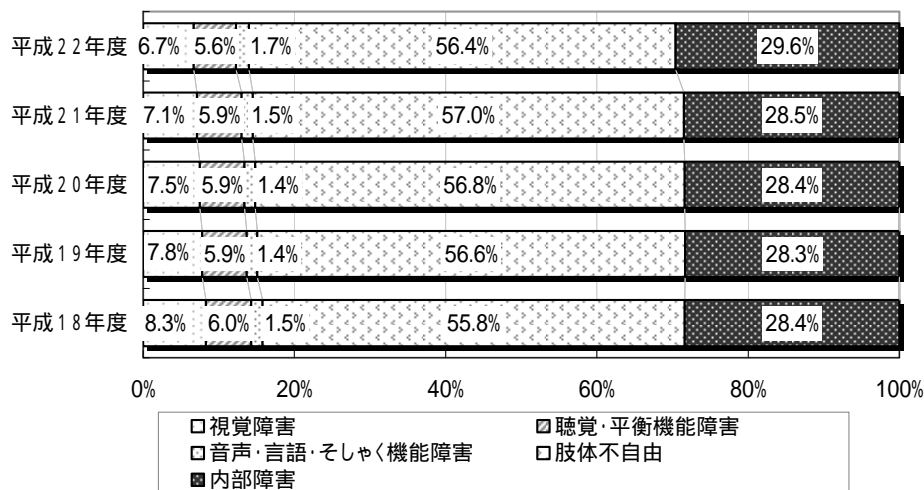
図表 2-9 身体障害者・児の割合の推移（年齢階級別）



図表 2-10 身体障害者・児の割合の推移（障害等級別）



図表 2-11 身体障害者・児の割合の推移（障害部位別）



< 出典 > 福祉行政報告例等

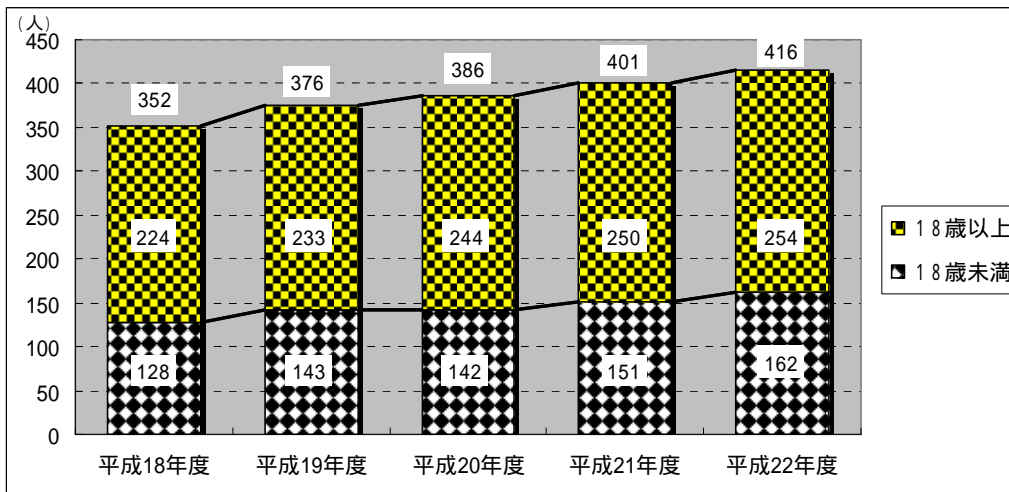
(3) 知的障害者・児の状況

平成23年3月31日現在、療育手帳の所持者数は、416人(総人口比0.68%)となっています。

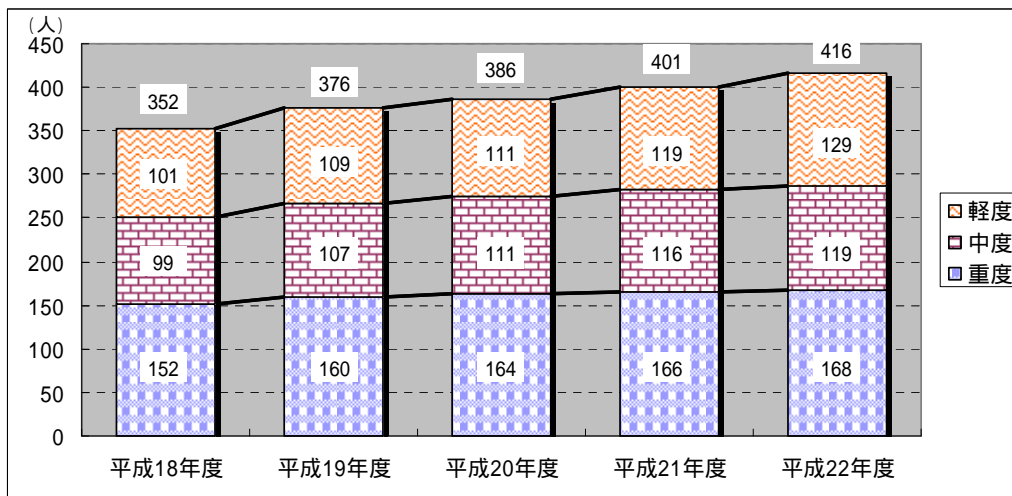
知的障害者・児の年齢階級別では、18歳未満の比率が38.9%、18歳以上が61.1%です。

なお、程度別では、重度が40.4%、中度が28.6%、軽度が31.0%となっており、4割が重度という状況です。

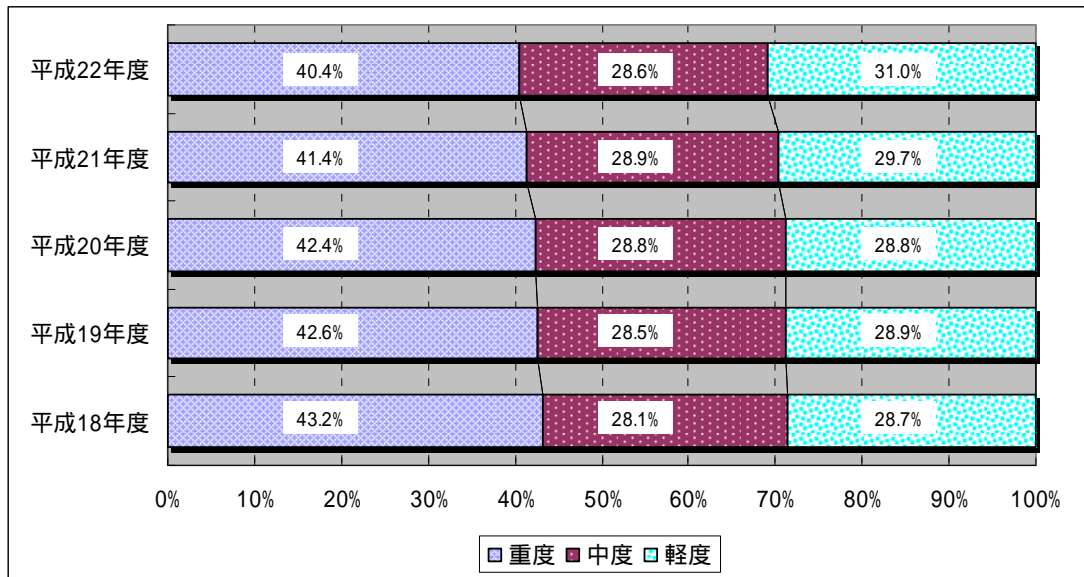
図表 2-12 知的障害者・児数の推移(年齢別)



図表 2-13 知的障害者・児数の推移(障害程度別)



図表 2-14 知的障害者・児の割合の推移（障害程度別）



< 出典 > 福祉行政報告例等

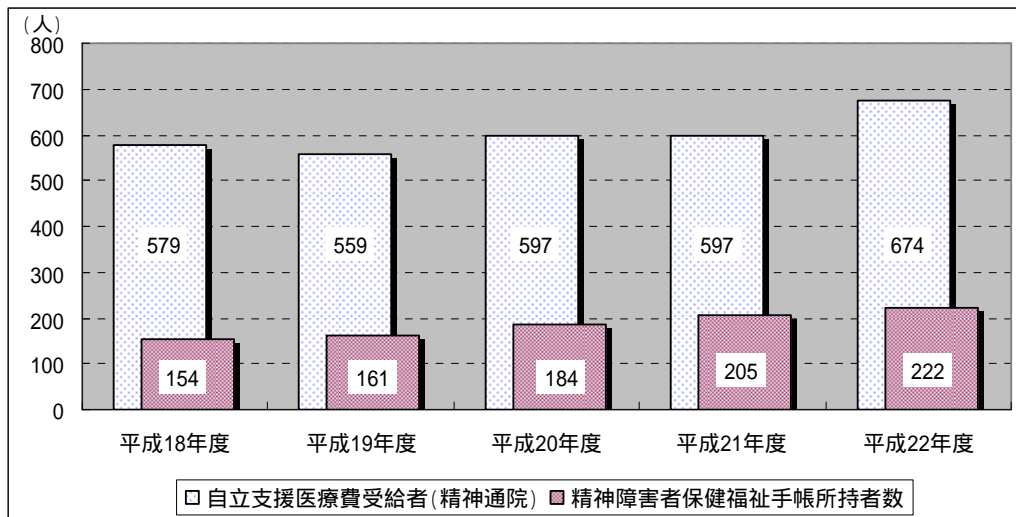
(4) 精神障害者の状況

平成23年3月31日現在、精神障害者保健福祉手帳の所持者数は222人(総人口比0.36%)です。近年の傾向として、精神障害者保健福祉手帳の所持者が増加しています。障害者自立支援法の施行に伴い、平成18年度に手帳取得者が一層増加しましたが、現在は制度の浸透から緩やかな増加となっています。

障害等級別では、重度が14.9%、中度が64.3%、軽度が20.8%となっています。

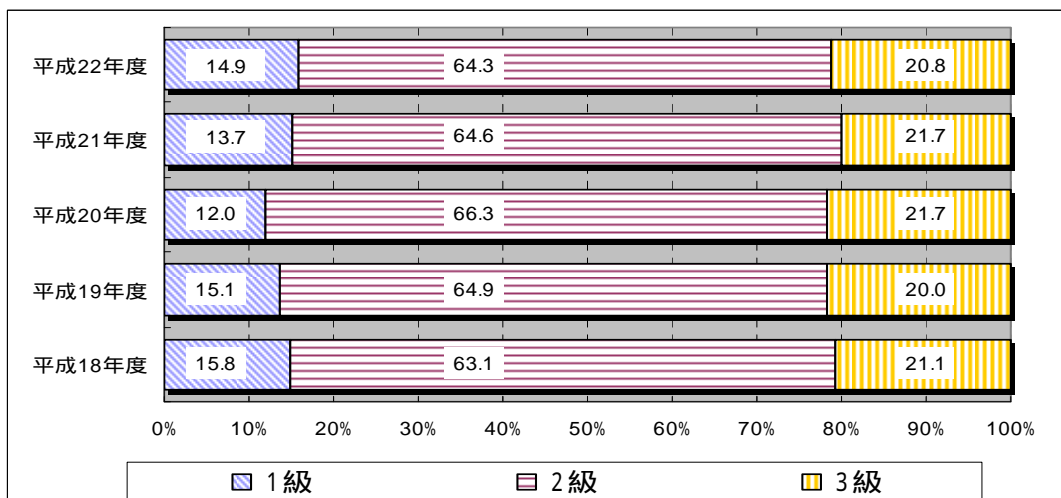
また、平成22年度の精神障害者の自立支援医療費の受給者数は、674人となっています。自立支援医療費の受給者数に対して、精神障害者保健福祉手帳保持者数は3割程度にとどまっています。

図表 2-15 精神障害者数の推移



< 出典 > 袖ヶ浦市調べ

図表 2-16 精神障害者数の割合の推移(障害等級別)



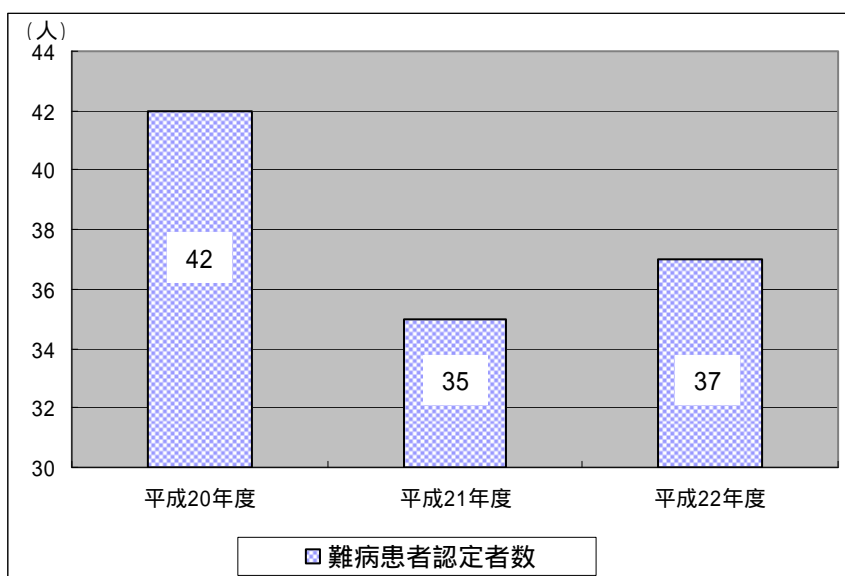
< 出典 > 福祉行政報告例等

(5) 難病患者の状況

難病患者については、ただちに障害者自立支援法や障害者関係各法の適用を受けるものではありませんが、平成22年度に特定疾患重症患者の認定を受けている人は37人です。

疾患別では、パーキンソン病関連疾患が9人、脊髄小脳変性症が5人、後縦靭帯骨化症が3人等となっています。

図表 2-17 難病患者の推移



< 出典 > 「君津健康福祉センター（君津保健所、旧木更津保健所）事業年報」

2. 調査の分析結果から見る障害者等の現状

(1) 調査の概要

調査目的と成果

前期計画策定時のアンケート調査は、平成18年6月に実施しました。障害者自立支援法が成立し、同年10月1日の本施行前であり、ノーマライゼーションやバリアフリーといった社会意識の観点、介護や就業、外出といった生活状況全般に係る調査が主であったため、今回の調査に際しては、障害者自立支援法に基づく各種障害福祉サービスの満足度、相談窓口・相談支援の充実度などの項目でアンケートを実施しました。アンケートの実施は、袖ヶ浦市が設置した袖ヶ浦市地域自立支援協議会の協力を得て、地域で暮らしている障害を持つ人や、支援をしている人、障害福祉に関心を持っている人などから、【袖ヶ浦市の現状】や【どうしたら暮らしやすい地域になるのか】など、アンケートを通して暮らしやすい地域づくりをするために意見を公募したものです。

調査方法及び調査時期

項目	内容
調査対象者	市内に居住している障がい者及び家族。病院、福祉施設関係者等
調査方法	公共施設・病院等にアンケートBOXの設置。病院、福祉施設への配布。
調査時期	平成22年11月15日～平成23年1月14日
有効回収数	205人

(2) 調査結果の概要

障害種別

図表 2-18

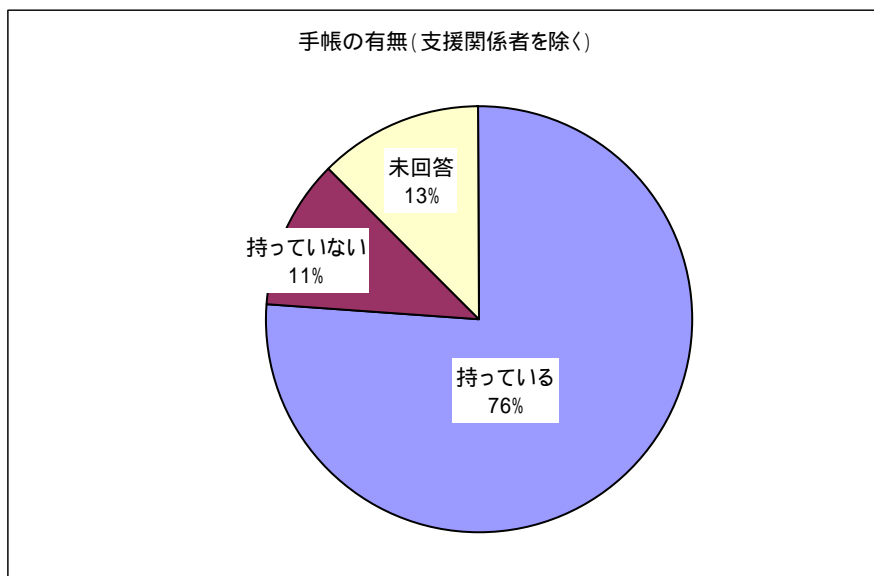
		身体障害	知的障害	精神障害	発達障害	身体・知的	その他
全体	86人	6人	40人	16人	3人	6人	15人
		7.0%	46.5%	18.6%	3.5%	7.0%	17.4%

(注)手帳所持者でない方も対象者に含まれるため(支援関係者等)回答数と同数とはなりません。

手帳の有無

この度のアンケートでは、手帳所持者はもとより、不所持者の人が11%回答しています。

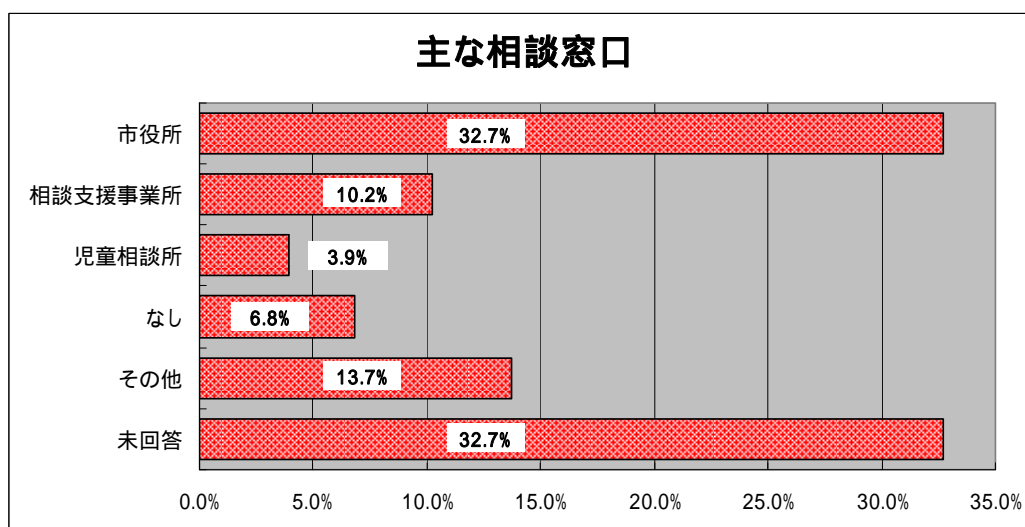
図表 2-18



主な相談窓口

未回答分を除くと、市役所（地域包括支援センター含む）が32.7%、相談支援事業所が10.2%、児童相談所が3.9%となっています。ただし、相談窓口が無いと回答している人も6.8%います。

図表 2-19

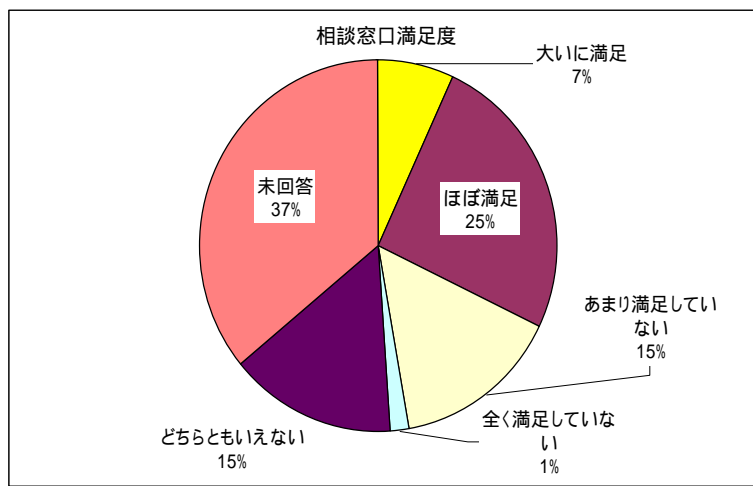


相談窓口の満足度

相談支援を利用している人の満足度としては、大いに満足しているが7%、ほぼ満足が25%、あまり満足していないが15%、全く満足していないが1%、どちらともいえないが15%となっています。

満足度としては満足している人と、満足していない・どちらともいえないと回答している人がほぼ同数となっています。

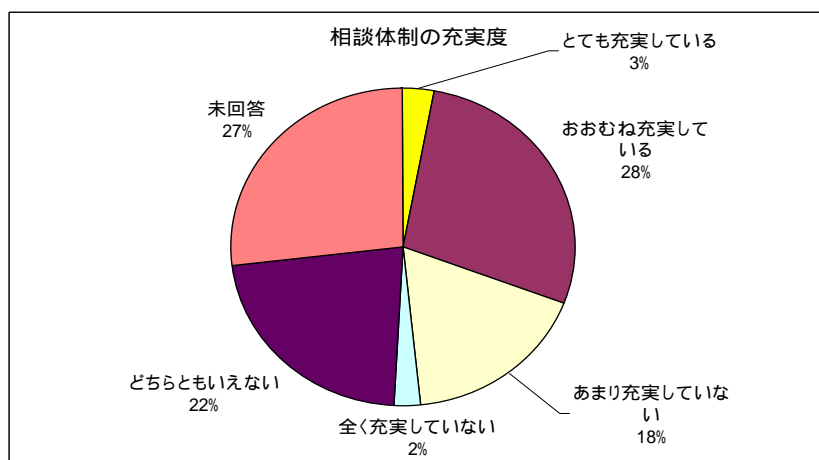
図表 2-20



相談支援体制の充実度

相談支援体制の充実度としては、とても充実しているが3%、おおむね充実しているが28%、あまり充実していないが18%、全く充実していないが2%、どちらともいえないが22%となっています。

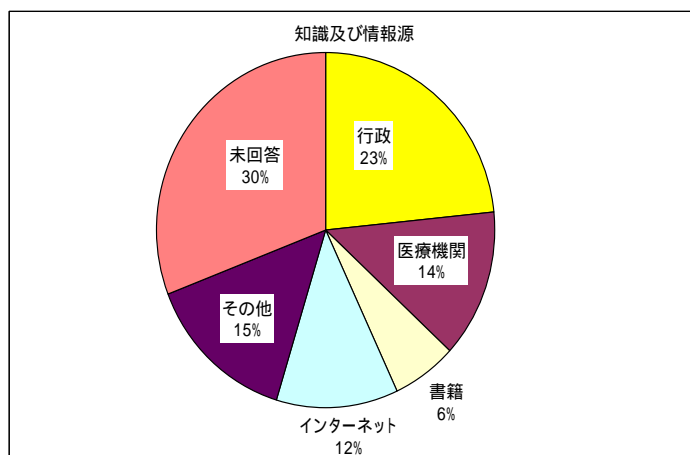
図表 2-21



知識及び情報源

障害を持つ人の情報の入手先としては、行政が 23%、医療機関が 14%、書籍が 6%、インターネットが 12%、その他が 15%となっています。公的機関（行政・医療機関）が 37%と全体の4割弱を占めています。

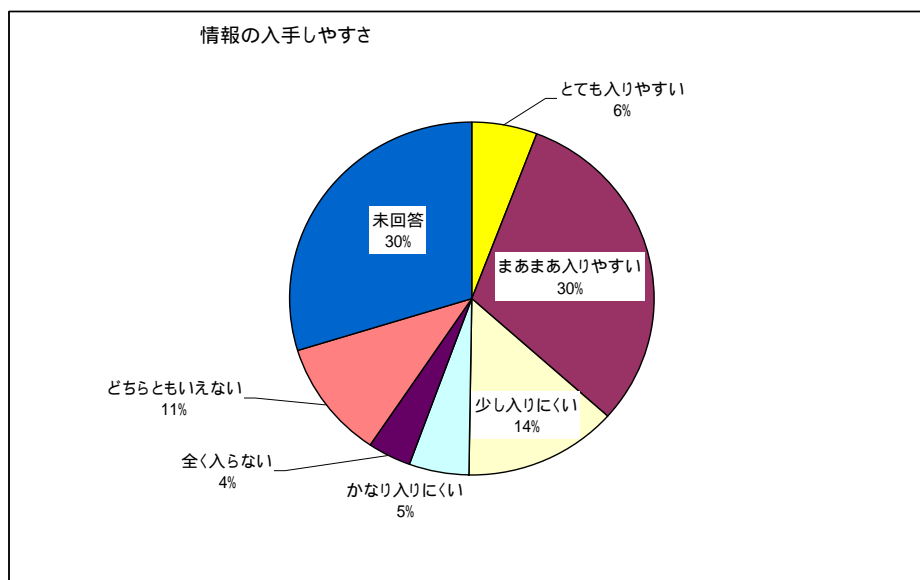
図表 2-22



情報の入手しやすさ

障害福祉に関する情報の入手のしやすさは、とても入りやすいが 6%、まあまあ入りやすいが 30%、少し入りにくい 14%、かなり入りにくい 5%、全く入らないが 4%、どちらともいえないが 11%となっています。

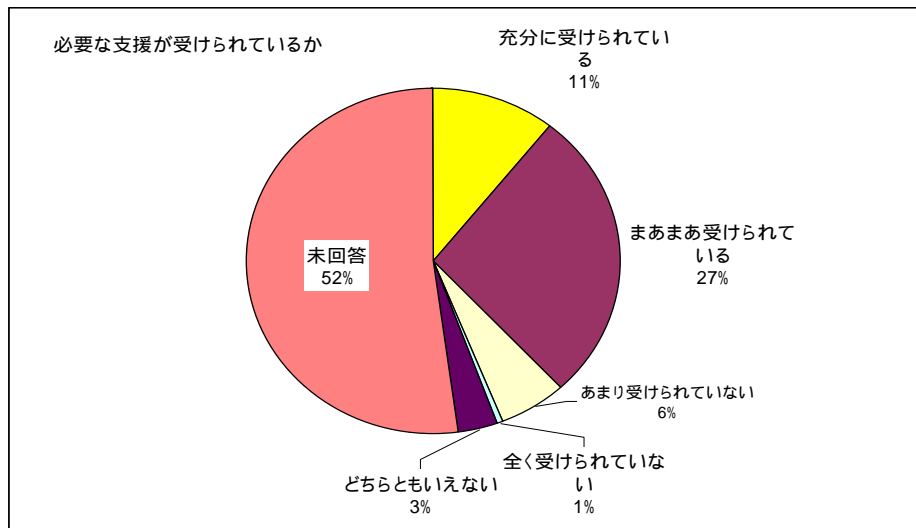
図表 2-23



必要な支援が受けられているか

必要な支援が受けられているかの調査では、十分に受けられているが11%、まあまあ受けられているが27%、あまり受けられていないが6%、全く受けられていないが1%、どちらともいえないが3%となっています。(未回答は当事者でない病院関係者等)

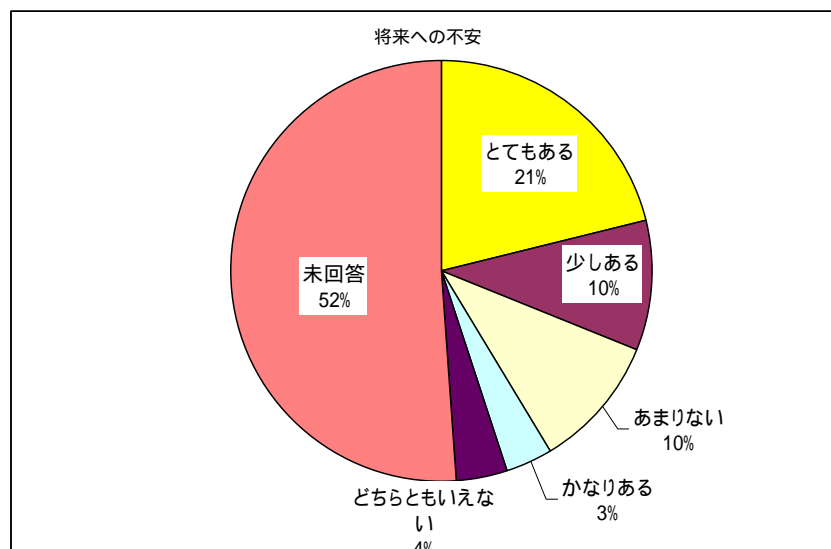
図表 2-24



将来への不安

将来の不安に関しては、とてもあるが21%、少しあるが10%、あまりないが10%、かなりあるが3%、どちらともいえないが4%となっています。

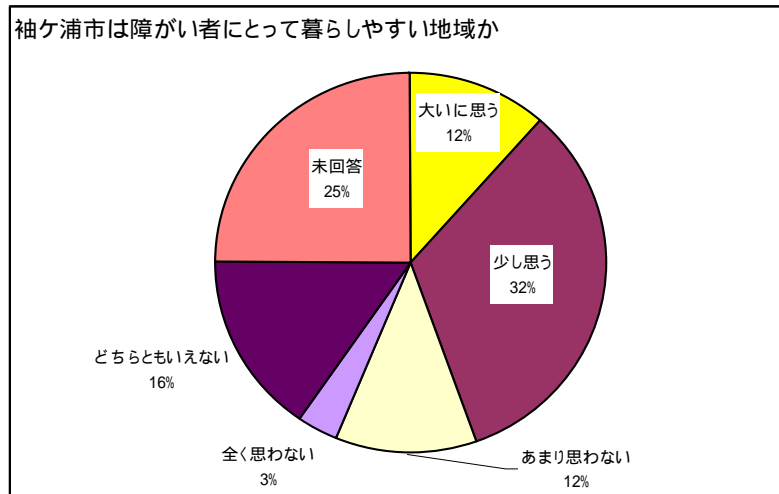
図表 2-25



袖ヶ浦市は、障害者が暮らしやすい地域だと思いますか

袖ヶ浦市が暮らしやすい地域かどうかに関する調査では、大いに思うと答えた人が12%、少し思うと答えた人が32%、あまり思わないと答えた人が12%、まったく思わないと答えた人が3%、どちらともいえないと答えた人が16%となっています。

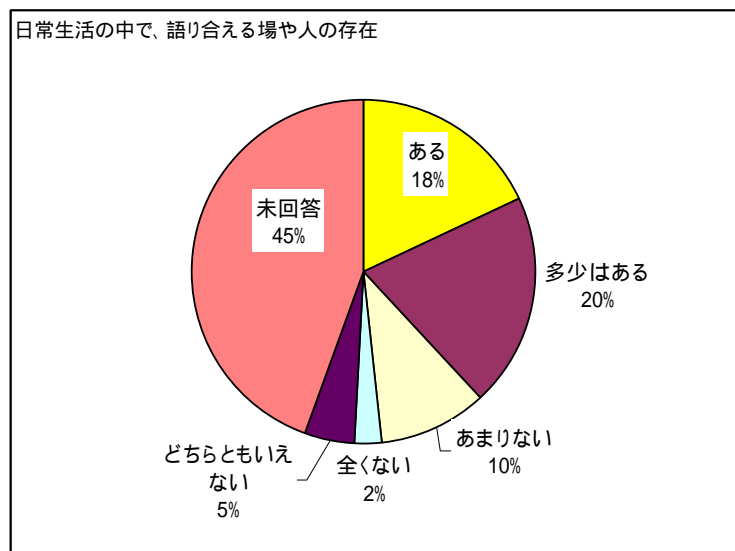
図表 2-26



語り合える場や人の存在

語り合える場や人の存在があるかの調査では、あるが18%、多少はあるが20%、あまりないが10%、全くないが2%、どちらともいえないが5%となっています。

図表 2-27



支援者間の関係は進んでいるか

支援者間の関係は進んでいるかの調査では、大いに進んでいるが 7%、少し進んでいるが 31%、あまり進んでいないが 20%、全く進んでいないが 1%、わからないが 21%となっています。

図表 2-28

